

登録作業療法士制度説明

2025.01.11

新生涯学修制度検討班

高畑進一

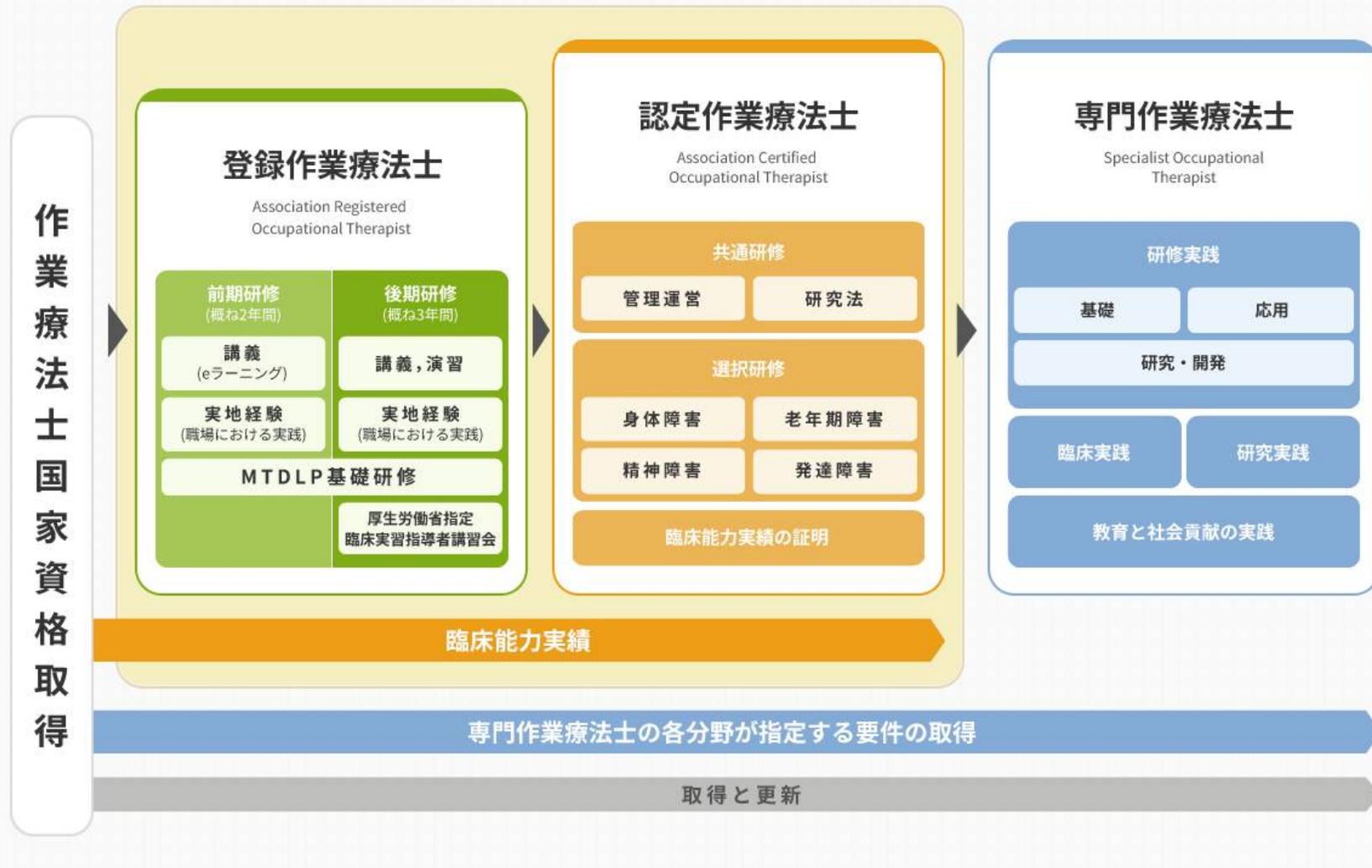
加筆修正入り 資料
2025年1月26日

本日の内容

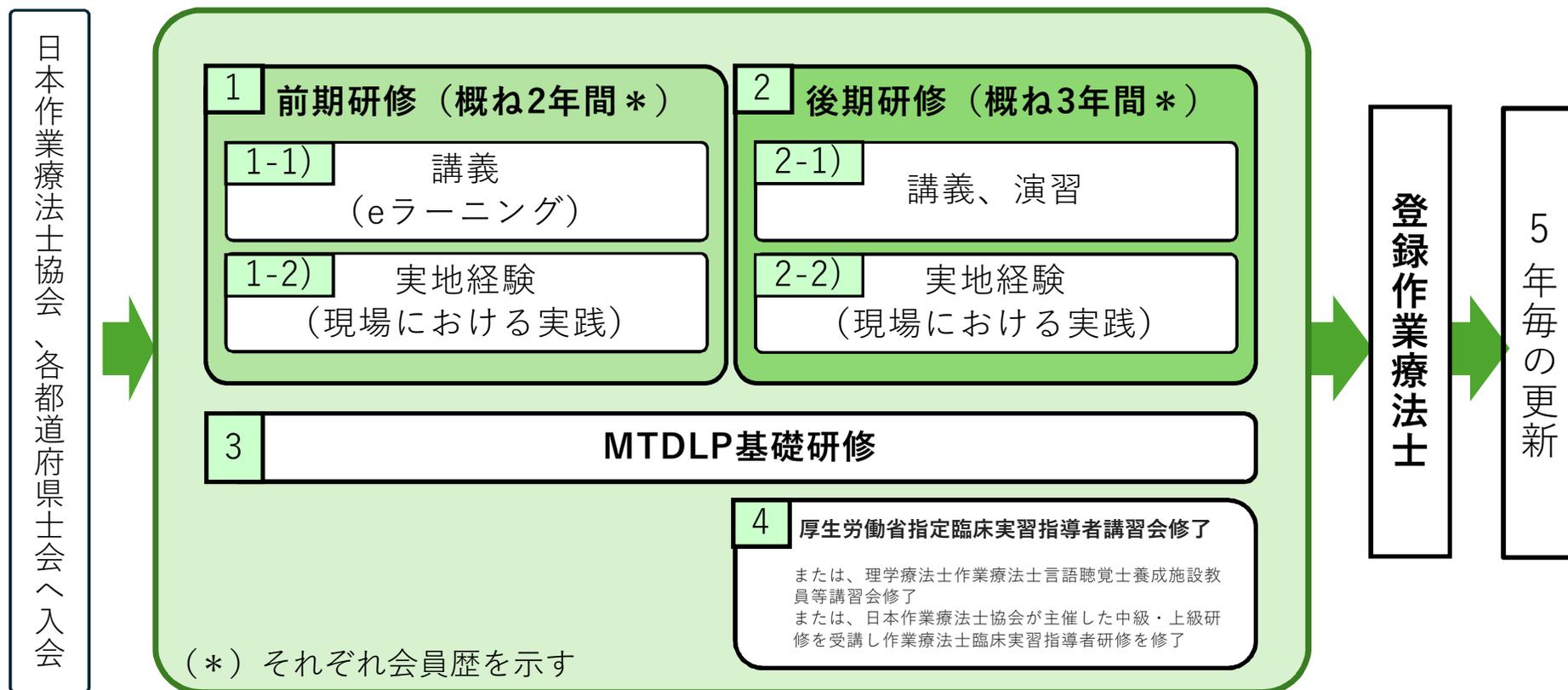
1. 登録作業療法士制度について
 1. 現行制度との関連
 2. 登録OTの定義とレベル
 3. 登録OT となるための研修と講習：目的と構成
2. 前期研修・後期研修の実地経験
 1. 実地経験とその目的
 2. 実地経験を構成する者と実地経験に使用するツール
 3. 実地経験の実施手続き
 - 研修中OTの行う事項
 - 研修中OTを支援する上位者OTの実施事項
 - 実地経験修了確認者の実施事項
 - その他：認定OT研修受講要件
3. 2024年度以前入会者の登録OT申請要件、読み替え要件
 1. 登録OT申請要件
 2. 登録OT読み替え時期
4. 各士会へのお願い事項

新しい生涯学修制度 構造図

一般社団法人日本作業療法士協会 新たな生涯学修制度 『選ばれる作業療法士を目指して』



登録作業療法士制度 概要



* 前期研修の2年間、後期研修の3年間とは、OT協会の会員歴がそれぞれ通算2年、通算3年をいう

* OT協会の会員歴は、入会月に関わらず、入会した年度を会員歴1年とカウントする

登録作業療法士定義

2024/8/17
理事会承認

一般社団法人日本作業療法士協会登録作業療法士（以下、登録作業療法士）とは、従事する実践領域において頻繁にかかわる疾患や障害のある、またはそれが予測される人々に対し、標準的な作業療法プロセスに従い、独力で作業療法を実践する能力を有する作業療法士を本会が認定した者をいう。

（注釈）

- ・「標準的作業療法プロセス」とは、自身が従事する実践領域において頻繁にかかわる疾患や障害がある者に、最新の知見に基づいて実践する一連の作業療法の過程である。
- ・「作業療法を実践する能力」とは、対象者の生活行為のニーズを捉える力、生活行為の向上に向けてセラピーする力、生活行為の達成のために協働する力、成果・結果を吟味し伝える力である。
- ・そして「作業療法の実践」は、対象者への説明と同意に基づいて行われる生活行為のニーズを捉える評価から、課題の抽出、妥当な目標の設定、妥当なプログラムの作成と安全な実施および記録、さらには結果・成果の吟味と報告・伝達に至る一連の作業療法の過程から成り、現場における基本的な業務管理や他職種・他部署との協業、後輩・学生などへの指導を含む。

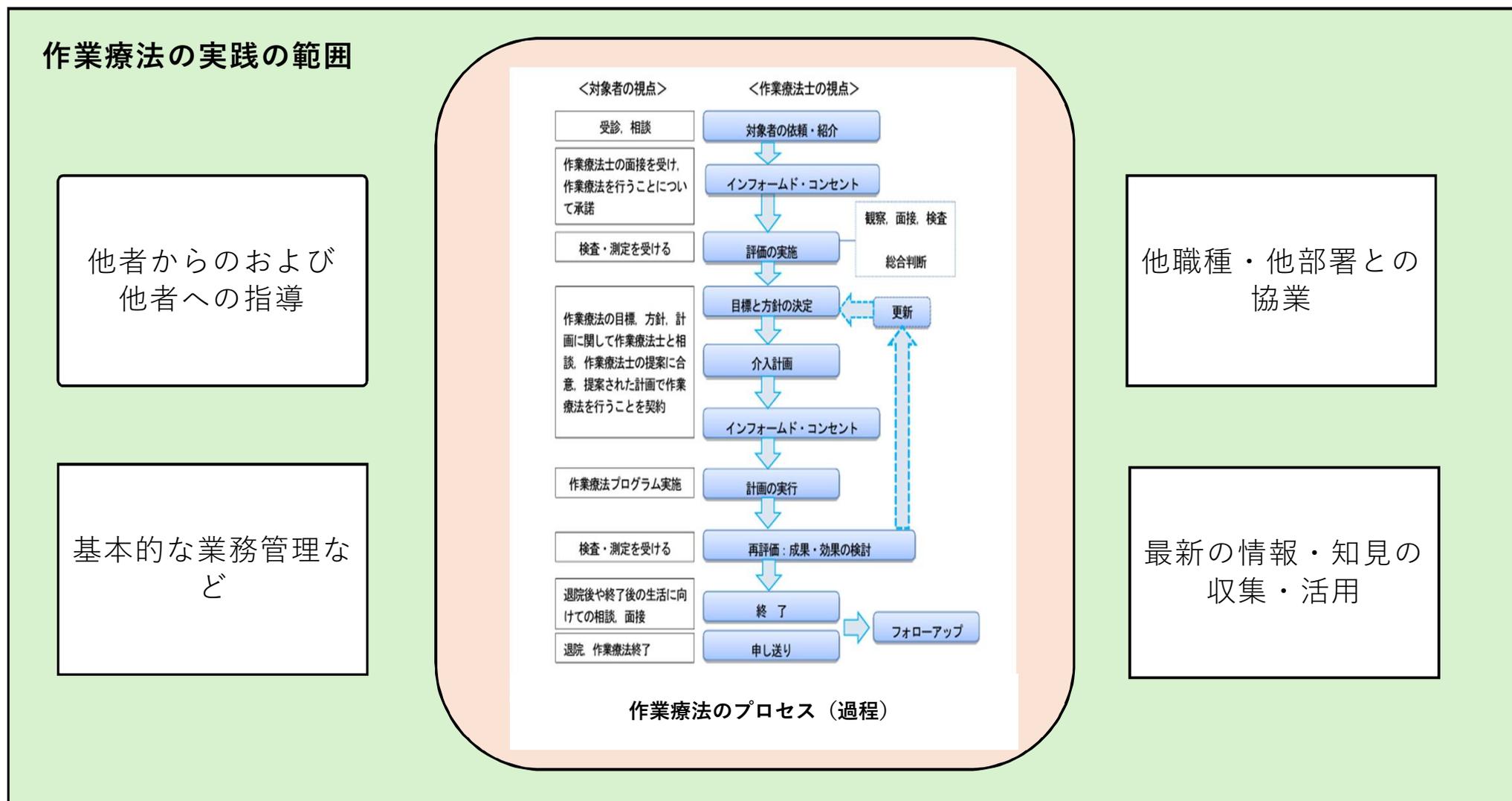


図1 作業療法の実践の範囲と作業療法プロセス（過程） 作業療法ガイドライン2024参考

【まとめ】登録作業療法士の有すべき能力とは

「従事する実践領域において頻繁にかかわる疾患や障害のある、またはそれが予測される人々に対し、標準的な作業療法プロセス（過程）に従い、独力で作業療法を実践する能力」であり

その能力には、

- * 【最新の知見に基づいて一連の作業療法を実践する力】
- * 【基本的な業務管理を行い、他職種・他部署と協業し、後輩・学生などを指導する力】を含む



作業療法士のクリニカルラダーにおいては、レベルV「標準的な作業療法プロセスに従い独力で作業療法を実践することができ、後輩への指導とともに学生の指導ができる」能力を有する者



この能力の修得を支援するため、**前期研修・後期研修**の修了と、さらに必要な研修・講習の修了を要件とする**登録作業療法士制度**を構成した

	前期研修 到達レベル		後期研修 到達レベル		登録作業療法士
作業療法の核となる 4つの実践能力	レベルⅠ 1-2年目の目安	レベルⅡ 2-3年目の目安	レベルⅢ 3-4年目の目安	レベルⅣ 4-5年目の目安	レベルⅤ 6-7年目の目安
	□ 基本的な作業療法プロセスに従い必要な指導のもと作業療法を実践することができる	□ 標準的な作業療法プロセスに従い必要な（最小限の指導）助言のもと作業療法を実践することができる	□ 標準的な作業療法プロセスに従い独力で作業療法を実践することができる	□ 標準的な作業療法プロセスに従い独力で作業療法を実践ことができ、上級者の助言・指導を得て後輩の指導ができる	□ 標準的な作業療法プロセスに従い独力で作業療法を実践ことができ、後輩への指導とともに学生の指導ができる

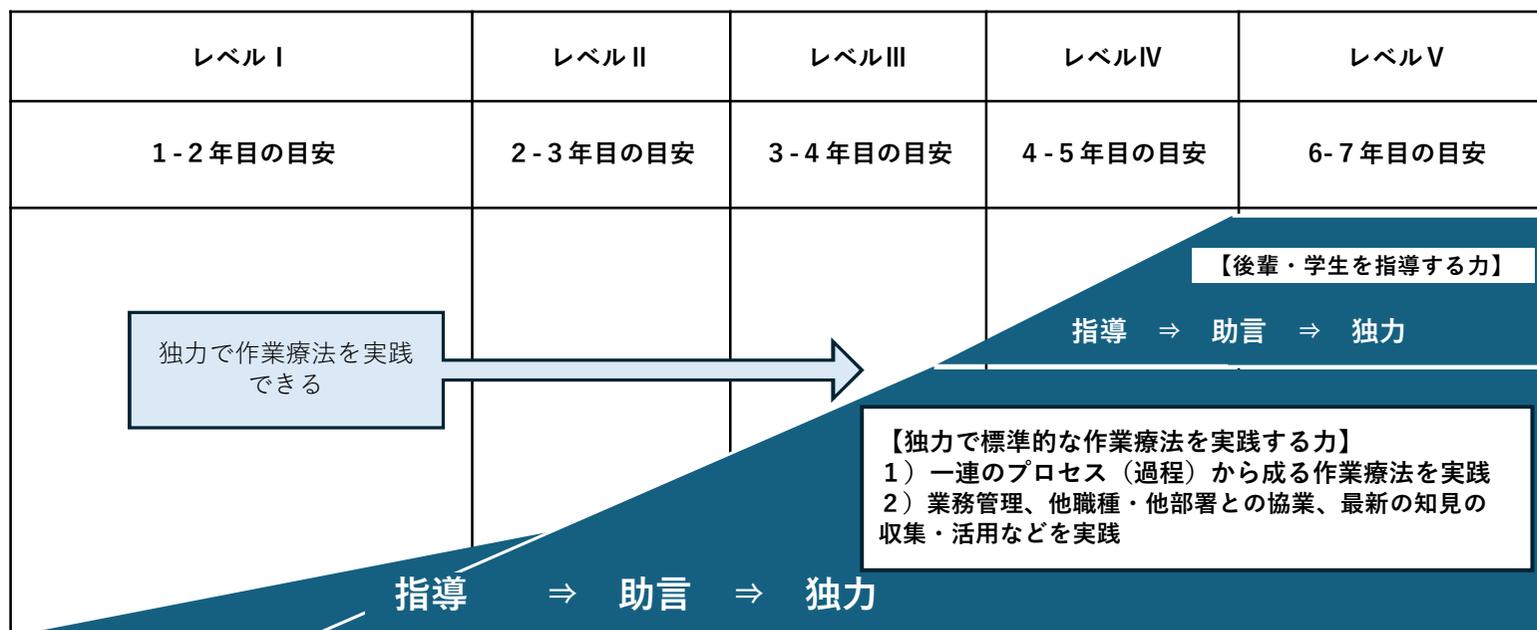
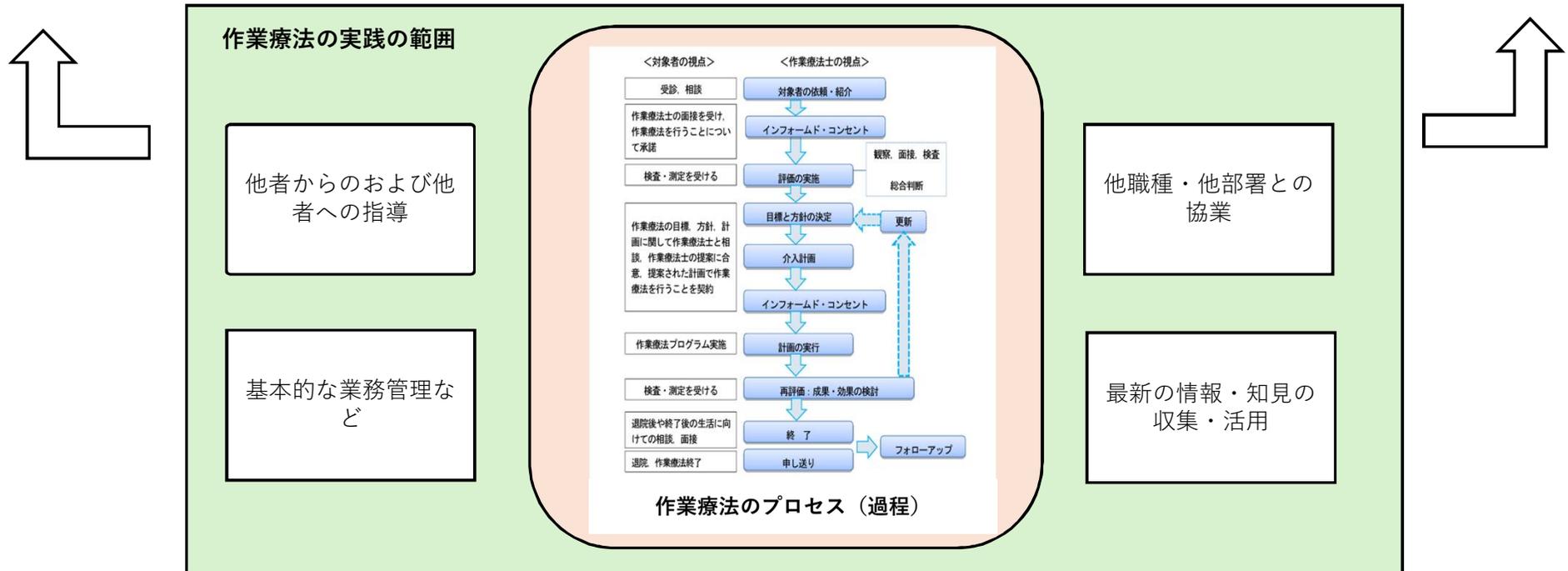


図 前期研修と後期研修および登録作業療法士のラダーレベル

前期研修の到達レベル	後期研修の到達レベル
<p>従事する実践領域において、頻繁にかかわる疾患や障害がある人々、または、それが予測される人々に対し</p>	
<p>【先輩や上位者の必要な指導を得て、作業療法の基本的要素を実践できる】</p>	<p>【独力で一連の作業療法を実践できる】 【先輩や責任者などの指導・助言を得て、作業療法の実践を後輩に指導できる】</p>



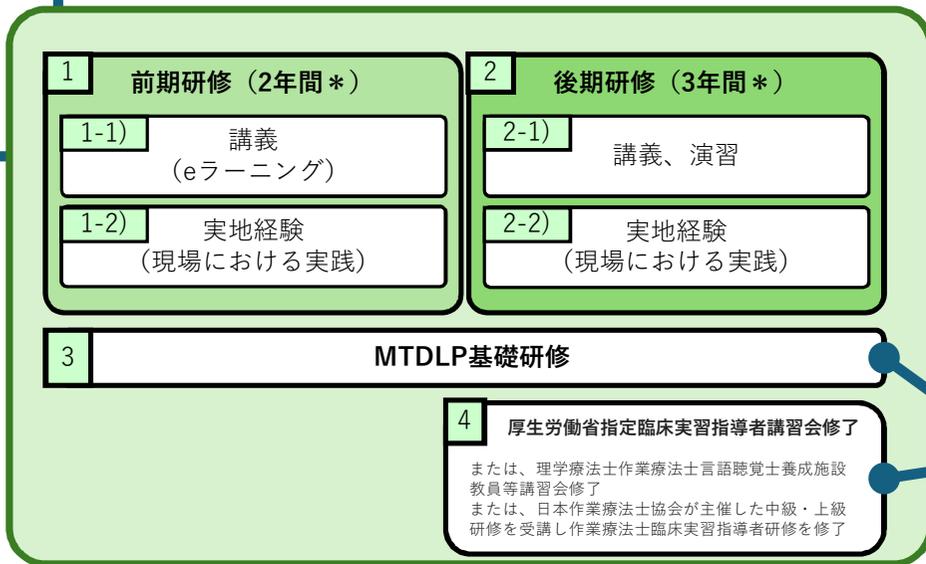
前期研修・後期研修の到達目標（GIO）

	前期研修の到達目標（GIO）	後期研修の到達目標（GIO）
作業療法の核となる4つの実践能力	レベルⅠ 基本的な作業療法プロセスに従い必要な指導のもと作業療法を実践することができる	レベルⅣ 標準的な作業療法プロセスに従い独力で作業療法を実践ことができ、上級者の助言・指導を得て後輩の指導ができる
対象者の生活行為のニーズを捉える力	<input type="checkbox"/> 必要な指導のもと、基本的な作業療法プロセスに従い、CLの価値ある生活行為を把握することができる	<input type="checkbox"/> 独力で、標準的な作業療法プロセスに従い、CLの価値ある生活行為を把握ことができ、助言・指導を得て後輩へ指導もできる
	<input type="checkbox"/> 必要な指導のもと、基本的な作業療法プロセスに従い、CLの健康状態、生活機能、環境因子、個人因子を把握するために必要な評価項目を選択し、実施することができる	<input type="checkbox"/> 独力で、標準的な作業療法プロセスに従い、CLの健康状態、生活機能、環境因子、個人因子を把握するために必要な評価項目を選択し、実施することができる 助言・指導を得て後輩へ指導もできる
生活行為の向上に向けてセラピーする力	<input type="checkbox"/> 必要な指導のもと、基本的な作業療法プロセスに従い、適切な課題の抽出、目標の設定ができる	<input type="checkbox"/> 独力で、標準的な作業療法プロセスに従い、適切な課題の抽出、目標の設定ができ、助言・指導を得て後輩へ指導もできる
	<input type="checkbox"/> 必要な指導のもと、基本的な作業療法プロセスに従い、適切なプログラムを作成し、実践できる	<input type="checkbox"/> 独力で、標準的な作業療法プロセスに従い、適切なプログラムを作成し、実践でき、助言・指導を得て後輩へ指導もできる
	<input type="checkbox"/> 必要な指導のもと、作業療法士の思考過程を示す実施記録を作成できる	<input type="checkbox"/> 独力で、作業療法士の思考過程を示す実施記録を作成でき、助言・指導を得て後輩へ指導もできる
	<input type="checkbox"/> 必要な指導のもと、基本的に必要なリスク管理を実践できる	<input type="checkbox"/> 独力で、基本的に必要なリスク管理を実践でき、助言・指導を得て後輩へ指導もできる
生活行為の達成のために協働する力	<input type="checkbox"/> 協業して作業療法を行うため、必要な指導のもと、基本的な作業療法業務管理を実践できる	<input type="checkbox"/> 協業して作業療法を行うため、基本的な作業療法業務管理を実践でき、助言・指導を得て後輩へ指導もできる
成果・結果を吟味し伝える力	<input type="checkbox"/> 必要な指導のもと、自己の臨床の質向上に取り組むことができる	<input type="checkbox"/> 独力で、自己の臨床の質向上に取り組むことができ、助言・指導を得て後輩へ指導もできる
	<input type="checkbox"/> 必要な指導のもと、文献や他者からの情報を集め、知識技術の向上に取り組むことができる	<input type="checkbox"/> 独力で、文献や他者からの情報を集め、知識技術の向上に取り組むことができ、助言・指導を得て後輩へ指導もできる
	<input type="checkbox"/> 必要な指導のもと、自身の臨床を振り返り、吟味し報告することができる	<input type="checkbox"/> 独力で、自身の臨床を振り返り、吟味することができ、後輩へ指導もできる
	<input type="checkbox"/> 必要な指導のもと、CLや家族に対し、作業療法内容、目的、成果を説明できる	<input type="checkbox"/> 独力で、CLや家族に対し、作業療法内容、目的、成果を説明できる。助言・指導を得て後輩へ指導もできる
	<input type="checkbox"/> 必要な指導のもと、学生に、作業療法内容、目的、成果を説明できる	<input type="checkbox"/> 助言・指導を得て 後輩に指導できる <input type="checkbox"/> 独力で、学生に作業療法内容、目的、成果を説明でき、作業療法指導の補助ができる

登録OT となるための研修と講習の構成（内容）

1-1)	70コンテンツ講義 (eラーニング) *LMS管理 *会員の受講無料	A領域	作業療法士基礎力～臨床実践のための基礎知識～
		B領域	作業療法分野横断的基礎力～臨床実践のための共通知識～
		C領域	作業療法分野特異的専門力～臨床実践のための専門知識～

2-1)	講義・演習 * 2027年度開始	<div style="border: 2px solid orange; padding: 5px;"> (新) 現職者共通研修：10テーマ 一部、eラーニングの活用を検討中 </div> (新) 現職者選択研修：現行通り継続
------	---------------------	---



- 「活動と参加」「作業」に焦点を置く
- 実践的内容を包含する
- 事例報告をテーマに含まない

現行制度通り

実地経験を登録作業療法士制度に導入する目的

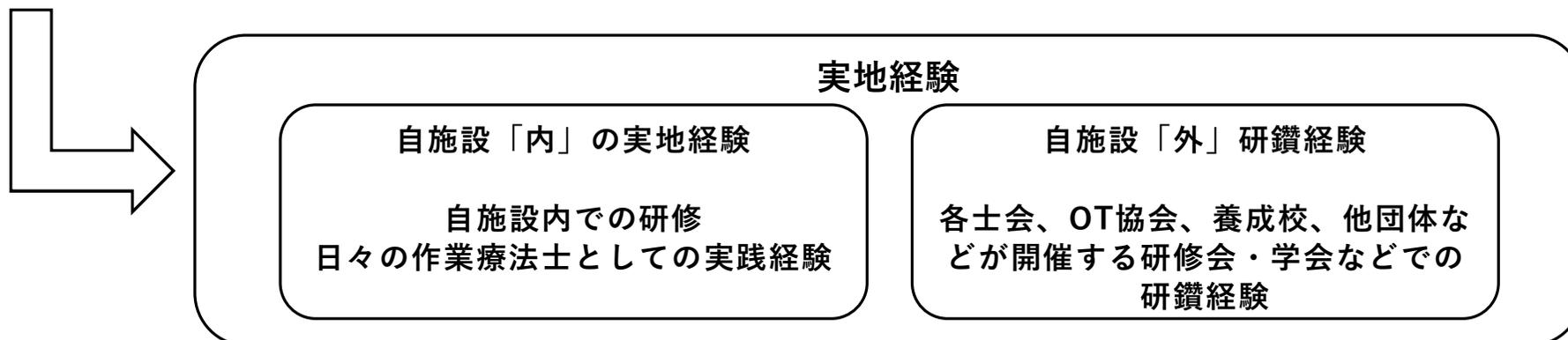
- (1) 前期研修・後期研修中のOTが、各施設・組織内および施設外で、主体的に必要な指導・助言を受けつつ研鑽し、標準的な実践能力を修得すること
- (2) 前期研修・後期研修中のOTが属する施設・組織内における学修（指導・助言）体制導入の一助とすること

登録作業療法士制度は、OTの継続的、主体的な学びと実践における学びを重視している。

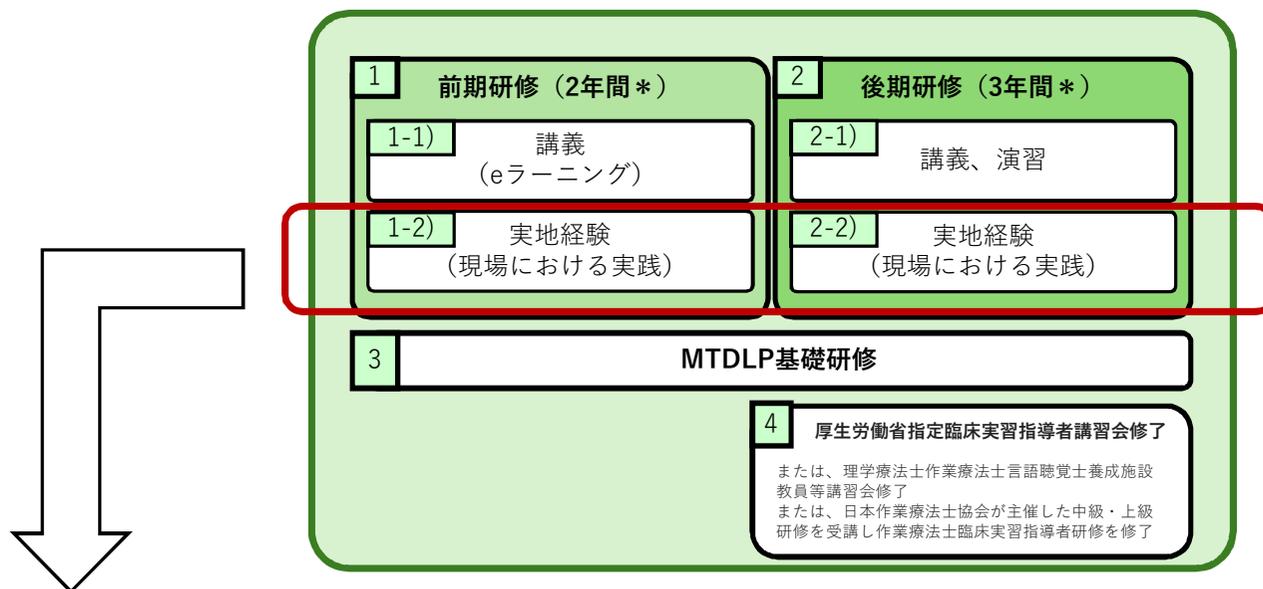
つまり、作業療法士が常に新しい知識を学び、それを実践に活用して技術を高め、これらを主体的に継続する態度、習慣を獲得すること、を重視している。さらに、OTの段階的な学びを支援する体制の構築も重視している。

実地経験とは何か

- **現場における作業療法士としての経験そのもの**であり、**自施設内での研修**、日々の実務における上級者（先輩や上司）からの指導や助言および主体的な見学や学習をふまえた**実践の経験**、臨床推論や成果・結果を吟味する経験、カンファレンスなどでの情報伝達の経験などをいう。
- さらには、**自施設外で開催される研修などでの研鑽経験**も含む。

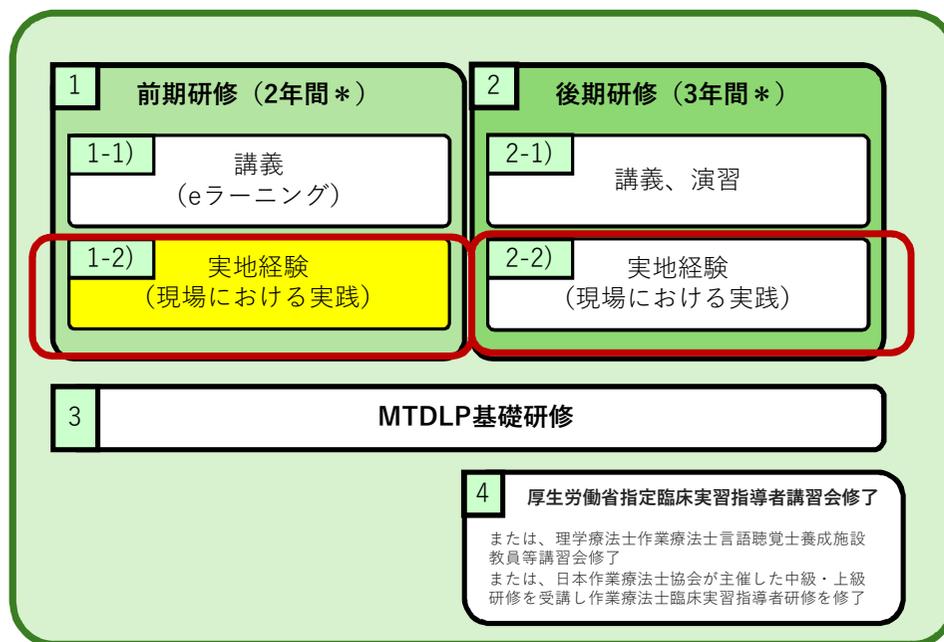


実地経験に含まれる事柄

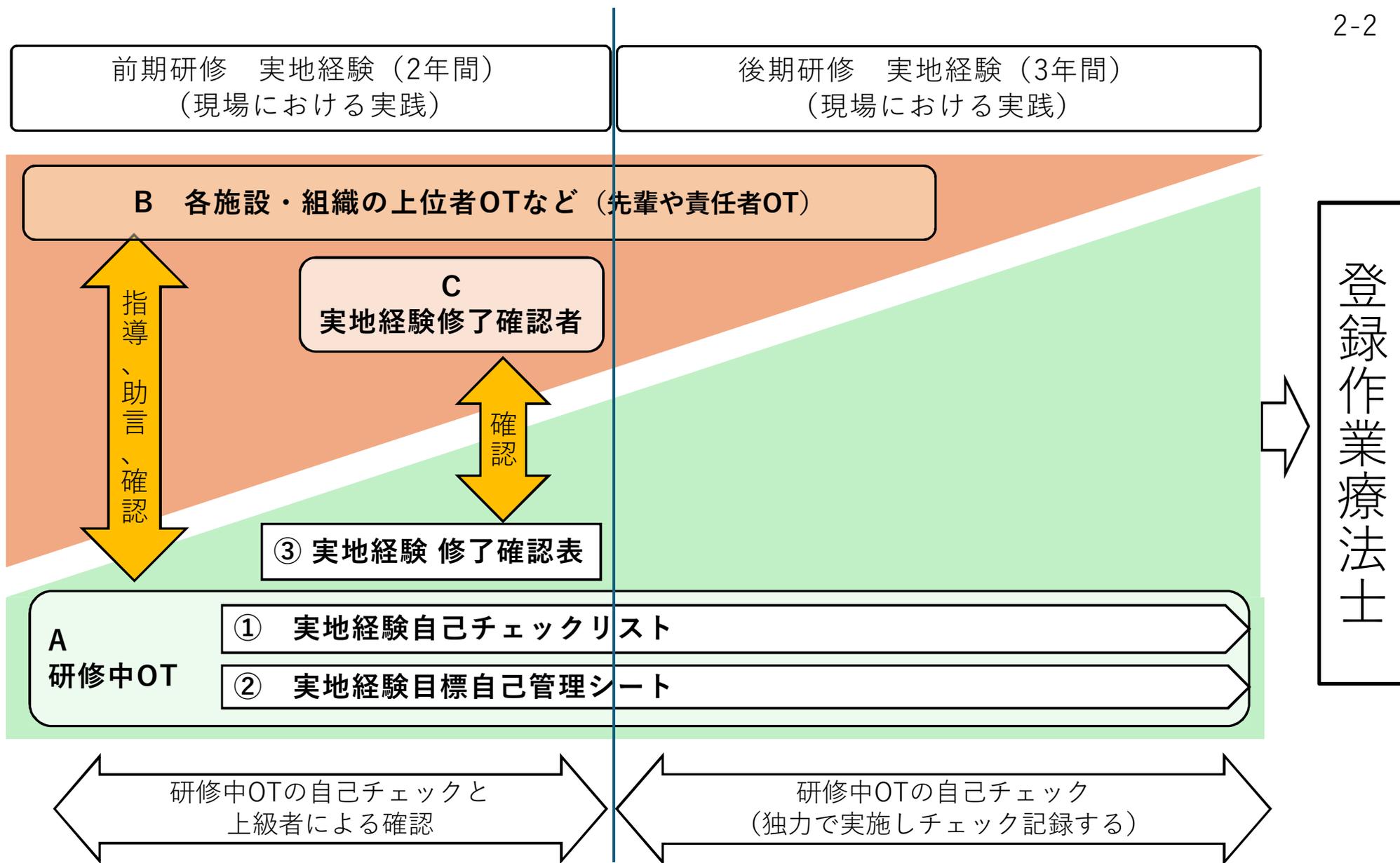


自施設「内」 実地経験	自施設内での研修や日々の実務における上級者（先輩や上司）からの指導や助言および主体的な見学や学習をふまえた実務経験、臨床推論や成果・結果を吟味する経験、カンファレンスなどでの情報伝達の経験など	
自施設「外」 研鑽経験	自施設外で開催される研修会・学会などへの参加 1) 所属する各士会主催の（実践技術に関する）学会や研修会などへの参加 2) 基礎ポイント対象の学会や研修会などへの参加 3) 養成校が開催する研修会などへの参加 など	基礎ポイントに 該当する 研修会・学会等

前期実地経験中の自施設外研鑽「必須回数」 (基礎ポイントに該当する研修会・学会など)	ア) の場合*	イ) の場合*	
1) 所属する各士会主催の実践技術に関する研修会や学会への参加	2回以上	合計 4回 以上	1) は、2回以上
2) 基礎ポイント対象の学会や研修会などへの参加	任意		任意
3) 養成校が開催する研修会などへの参加 など			



*ア) イ) は、実地経験修了確認者 (OT) の有無による区分



実地経験を構成する者とその役割

2-2

実地経験を構成する者		役割
A	研修中OT (前期研修・後期研修中のOT)	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に必要な指導・助言を得て、実地経験の目標を設定する ・主体的に必要な指導・助言を得て、作業療法実践能力を段階的に修得する ・実地経験の目標と進捗を自己管理する
B	各施設・組織の上位者OT (管理的立場のOTや先輩OTなど)	<ul style="list-style-type: none"> ・研修中OTの実地経験1年目および2年目の目標について指導・助言し、合意する ・前期・後期研修中のOTが求める必要な指導・助言を行い、作業療法実践能力の修得を支援する ・適宜、実地経験の目標と進捗を確認し、自己管理を促す
C	前期研修・実地経験修了確認者	<ul style="list-style-type: none"> ・研修中OTとともに前期研修（会員歴2年間）の実地経験の修了を確認
C前期研修・実地経験修了確認者の要件 <ul style="list-style-type: none"> ・研修中のOTと同じ施設・組織に属するOT協会員であること ・登録作業療法士である者（*） <p>（*）5年（2030年3月末）までは、以下の講習会、研修会のいずれかを修了しているOT協会員も可</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 厚生労働省指定の臨床実習指導者講習会 2) 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会 3) OT協会による臨床実習指導者中級・上級研修会 		

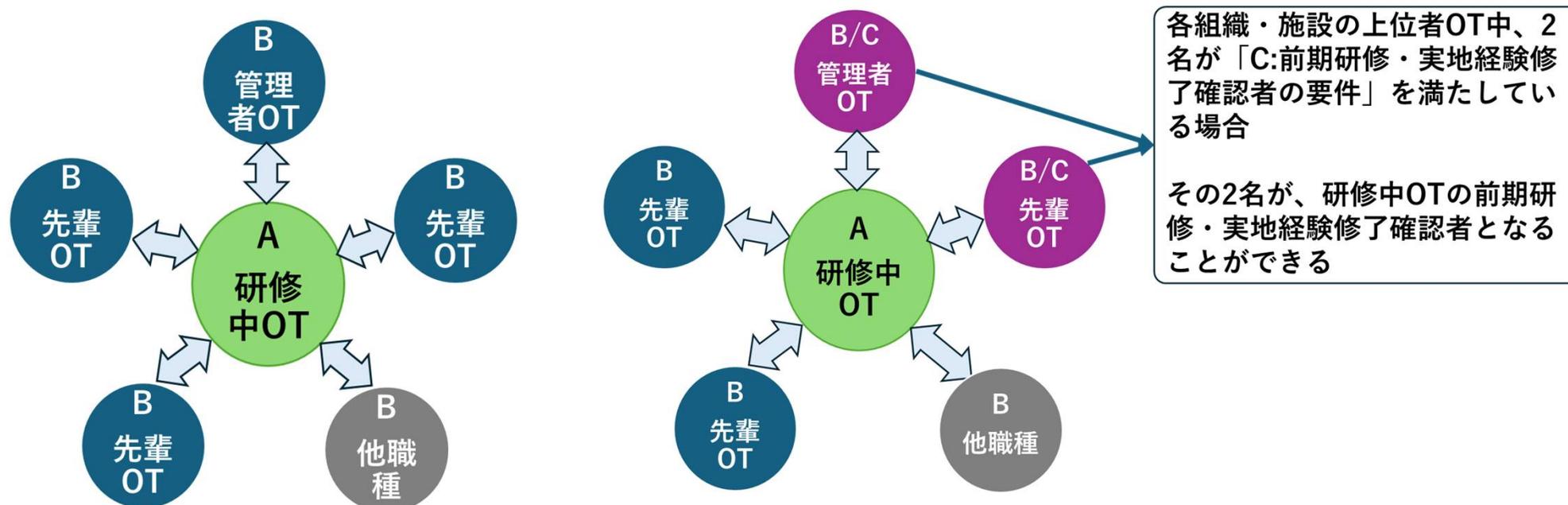


図 実地経験における (A) 研修中OT、(B) 各組織・施設の上位者OT、(C) 実地経験修了確認者の関係

実地経験に使用するツール

【OT協会版ツール】		使用目的
①	実地経験 自己チェックリスト	研修中OTが実地経験の進捗を自己管理するため、実施可能となった事項を自己チェックする
②	実地経験 目標自己管理シート	研修中OTが実地経験において修得すべき知識、技術、態度、研鑽経験などの目標を具体的、段階的に設定し、進捗を自己管理する
③	前期研修 実地経験 修了確認表	研修中OTが、前期研修・実地経験を修了したことを実地経験修了確認者とともに確認し、協会LMSシステムに提出する

- ◆ ①、②は【OT協会版】でなく、【自施設版】の新人教育ツールなどを使用していただくことよい
- ◆ ③は、研修中OT全員が共通に使用する

① 実地経験自己チェックリスト（一部を示す）

実地経験自己チェックリスト (Ver.1) 2024作業療法ガイドラインに準拠								
ラダー4つの力	大項目	中項目	小項目	必要な指導のもと できる	助言のもとでき る	独力でできる	助言・指導を得て後 輩に指導できる	
生活行為を向上に力 を向けさせる	1. 作業療法の実践（作業療法の質を担保するために）							
	1) 管理運営							
	一般的リスク管理	バイタルサインの確認をする						
		全身状態の確認をする						
		意識・アウェアネス（場所、時間、周囲の状況、自身に対する気づき）の確認をする						
		衛生・感染管理をする						
		治療処置管理をする						
		褥瘡予防、良肢位保持をする						
		動作介助時の安全の確保をする						
		廃用症候群予防をする						
設備・物品などの環境の保守管理をする								
一次救命救急処置をする								
生活行為を達成するために協働する力	記録の作成	評価について記録する						
		介入の実施について記録する						
		その他の記録する						
	組織マネージメント	所属する職場の職員としての職場ルールを遵守する						
		所属する職場の社会的役割を説明する						
		所属する職場の構成員としての役割を理解し、作業療法部の円滑な業務運営に努める						
		所属する職場の構成員としての役割を理解し、多職種、他機関との円滑な業務運営に努める						
		所属する職場内で適宜、報告・連絡・相談をする						
		休暇・時間外勤務・出張等の手続きを適切にする						
		管理者に業務上の報告・連絡・相談を適切にする						
職業倫理	施設・組織の安全管理マニュアルを理解する							
	部門の設備・備品の保守管理をする							
	医療倫理に基づき、人間の尊厳を尊重して行動する							
	作業療法倫理綱領や職業倫理指針を遵守する							
2) 多職種連携 チームアプローチ	ハラスメントに関する知識を持ち行動する							
	医療法、理学療法士及び作業療法士法に基づいて、職場業務ガイドラインに沿って実践を行うことを理解する							
	個人情報保護について理解する							
	業務上知り得た個人情報の守秘義務を遵守する							
部門内の連携	作業療法部門における連携をする（適宜の情報共有）							
施設・組織内の連携	多職種との連携をする（適宜の情報交換、病棟回診・病棟カンファレンスなど）							
他施設・他組織との連携	他機関と連携する（依頼文書や報告書による連携、サービス調整会議など）							
その他	その他の大学やNPO,当事者団体などと連携する							

①実地経験自己チェックリスト（続き）

3) 研鑽と教育							
成果・結果を吟味し伝える力	自己研鑽	自施設内での研鑽	自身の臨床実践を振り返り、吟味する				
			臨床実践で生じた疑問を解決するために日々行動する（他者や本などからの情報収集）				
			EBPに基づく作業療法を実施するための文献を検索する				
			自施設内（外）での事例検討会で発表する				
			協会の定める生涯学習システムに沿って学習する				
	自施設（組織）内の研修に積極的に参加する						
	自己研鑽	自施設外での研鑽 (必須事項)	自施設（組織）外の学会、研修会などに参加する				
★ 以下のア) の場合とイ) の場合で、前期研修実地経験修了確認方法が異なることに注意する							
ア) 【前期研修・実地経験修了確認者が自施設・組織内にいる場合】 ①前期研修期間中に、各士会主催の（実践技術に関する）学会や研修会などに2回以上参加する							
			イ) 【前期研修・実地経験修了確認者が自施設・組織内に不在の場合】 以下の①を2回以上、かつ①、②、③を合わせて計4回以上参加する。 ①前期研修期間中に、各士会主催の（実践技術に関する）学会や研修会などに参加する ②前期研修期間中に、基礎ポイント対象の学会や研修会などに参加する ③前期研修期間中に、養成校が開催する研修会などに参加する				
	教育	後輩・学生への教育・指導	後輩の課題（困っていること）の内容を共有する				
上級者の助言・指導を得て、後輩の課題（困っていること）について、解決に向けた助言・指導をする							
学生の課題（困っていること）の内容を共有する							
			上級者の助言・指導を得て、学生の課題（困っていること）について、解決に向けた助言・指導の補助をする				

自施設（組織）外の学会、研修会などに参加する

★ 以下のア) の場合とイ) の場合で、前期研修実地経験自施設外研鑽の必須事項が異なることに注意

ア) 【前期研修・実地経験修了確認者が自施設・組織内にいる場合】

①前期研修期間中に、所属する各士会主催の（実践技術に関する）学会や研修会などに**2回以上**参加する

イ) 【前期研修・実地経験修了確認者が自施設・組織内に不在の場合】

以下の①を**2回以上**、かつ①、②、③を合わせ**計4回以上**参加する。

①前期研修期間中に、所属する各士会開催の（実践技術に関する）学会や研修会などに参加する

②前期研修期間中に、基礎ポイント対象の学会や研修会などに参加する

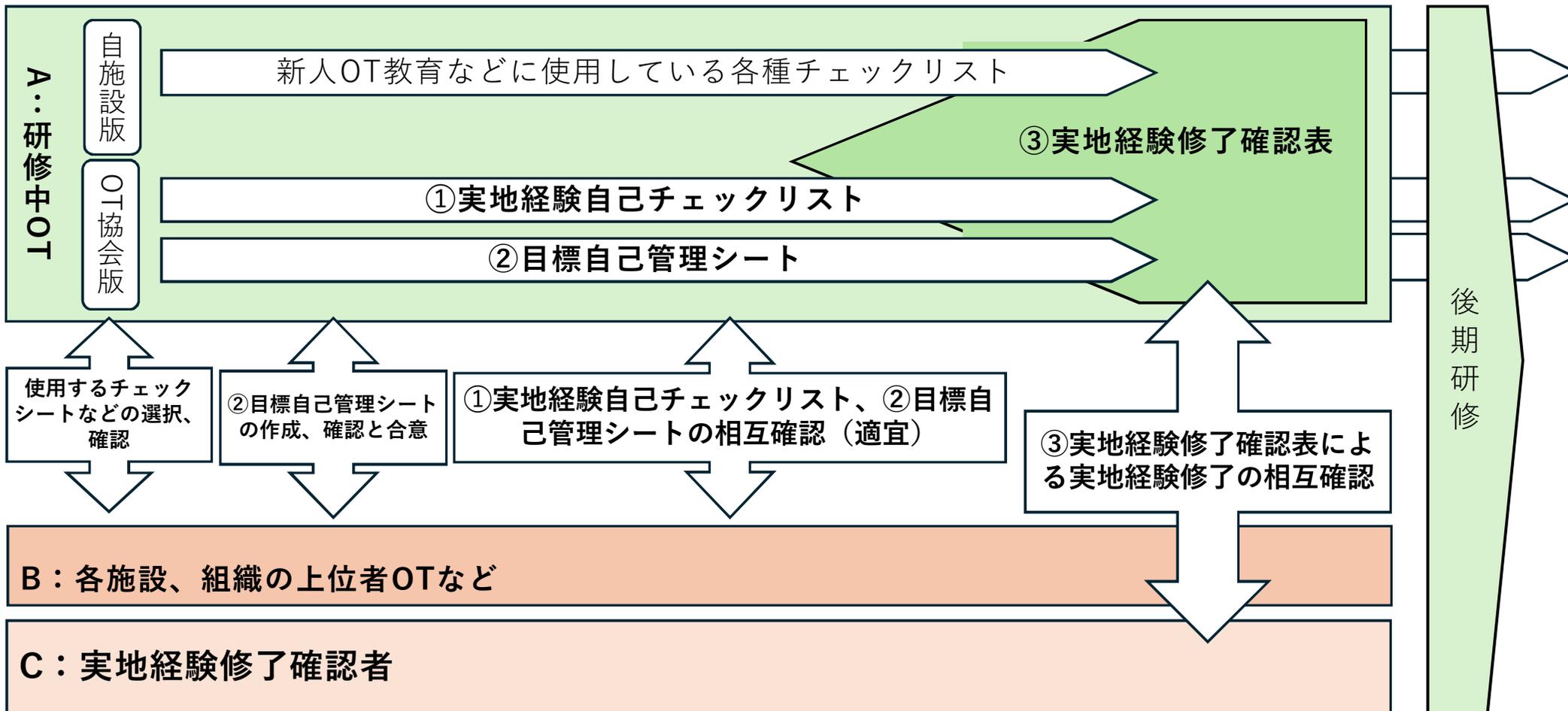
③前期研修期間中に、養成校が開催する研修会などに参加する

③前期研修実地経験 修了確認表（一部を示す）

作業療法生涯学修制度		前期研修・実地経験 修了確認表 (Ver.1)	
		前期研修・実地経験 修了確認日	年 月 日
		OT協会 会員番号	氏 名 (自筆)
前期研修・実地経験修了者			
前期研修・実地経験修了確認者 (注1)			(印)
<p>(注1) 実地経験修了確認者は登録作業療法士であることを条件とする。ただし、2030年3月末までは、以下の講習会、研修会のいずれかを修了している協会員も認める。</p>			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> すべてのチェック項目が、「(必要な指導のもと) 妥当であり、十分である」と確認されることにより修了確認とする </div>		1) 厚生労働省指定の臨床実習指導者講習会 2) OT協会による臨床実習指導者中級・上級研修会 * 1) 2) については、協会のポータルサイトに認定番号が掲載されている者 3) 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会	
		(必要な指導のもと) 妥当であり、十分である	(必要な指導のもと) 相当の疑問が残り、不十分である (⇒ 次回の確認に持ち越し)
1. 生活行為のニーズを捉える力			
<input type="checkbox"/> 必要な指導のもと、基本的な作業療法プロセスに従い、CLの価値ある生活行為を把握することができる	確認方法 (例) ◆修了確認を受ける研修中の作業療法士が担当する1症例を確認の対象とする ◆研修中の作業療法士は、担当するCLにとって価値ある生活行為は何であるかを説明する	記入方法 <input type="checkbox"/> 修了確認者は、その内容が作業療法のプロセスにおいて把握するべき情報として妥当であり、十分であると判断する	<input type="checkbox"/> 修了確認者は、その内容が作業療法のプロセスにおいて把握するべき情報として、相当の疑問が残り、不十分であると判断する
	記入方法 いずれかに回		
<input type="checkbox"/> 必要な指導のもと、基本的な作業療法プロセスに従い、CLの健康状態、生活機能、環境因子、個人因子を把握するために必要な評価項目を選択し、実施することができる	確認方法 (例) ◆修了確認を受ける研修中の作業療法士が担当する1症例を確認の対象とする ◆研修中の作業療法士は、担当するCLの健康状態、生活機能、環境因子、個人因子を把握するために必要な評価項目の選択および実施内容(手段)を説明する	<input type="checkbox"/> 修了確認者は、必要な評価項目の選択および実施内容(手段)が妥当であり、十分であると判断する	<input type="checkbox"/> 修了確認者は、評価項目の選択および実施内容(手段)のいずれか、あるいは両方に相当の疑問が残り、不十分であると判断する
	記入方法 いずれかに回		
2. 生活行為向上に向けてセラピーする力			
<input type="checkbox"/> 必要な指導のもと、基本的な作業療法プロセスに従い、妥当な課題の抽出、目標の設定ができる	確認方法 (例) ◆修了確認を受ける研修中の作業療法士が担当する1症例を確認の対象とする ◆研修中の作業療法士は、担当するCLの、課題と目標の設定を説明する	<input type="checkbox"/> 修了確認者は、課題と目標の設定について、その両方が妥当であり、十分であると判断する	<input type="checkbox"/> 修了確認者は、課題と目標の設定について、いずれかに、あるいは両方に相当の疑問が残り、不十分であると判断する
	記入方法 いずれかに回		
<input type="checkbox"/> 必要な指導のもと、基本的な作業療法プロセスに従い、妥当なプログラムを作成し、実践できる	確認方法 (例) ◆修了確認を受ける研修中の作業療法士が担当する1症例を確認の対象とする ◆研修中の作業療法士は、担当するCLの、プログラム作成と実践について説明する	<input type="checkbox"/> 修了確認者は、プログラム作成と実践について、その両方が妥当であり、十分であると判断する	<input type="checkbox"/> 修了確認者は、プログラム作成と実践について、いずれかに、あるいは両方に相当の疑問が残り、不十分であると判断する
	記入方法 いずれかに回		
<input type="checkbox"/> 必要な指導のもと、作業療法士の思考過程を示す実施記録を作成できる	確認方法 (例) ◆修了確認を受ける研修中の作業療法士が担当する1症例を確認の対象とする ◆研修中の作業療法士は、担当するCLに関する記録物について説明する	<input type="checkbox"/> 修了確認者は、研修中の作業療法士が作成したカルテ等の記録物を閲覧し、その内容が作業療法士の思考過程を示す実施記録として妥当であり、十分であると判断する	<input type="checkbox"/> 修了確認者は、研修中の作業療法士が作成したカルテ等の記録物を閲覧し、その内容が作業療法士の思考過程を示す実施記録として相当の疑問が残り、不十分であると判断する
	記入方法 いずれかに回		
<input type="checkbox"/> 必要な指導のもと、基本的に必要なリスク管理を実践できる	確認方法 (例) ◆研修中の作業療法士は、従事する施設において基本的に必要なリスク管理について説明する	<input type="checkbox"/> 修了確認者は、研修中の作業療法士が、従事する施設において基本的に必要なリスク管理の実践が妥当であり、十分であると判断する	<input type="checkbox"/> 修了確認者は、研修中の作業療法士が、従事する施設において基本的に必要なリスク管理の実践に相当の疑問が残り、不十分であると判断する
	記入方法 いずれかに回		

前期研修・実地経験の手続き（経時的手続き図）

前期 実地経験 1年目（会員歴）						前期 実地経験 2年目（会員歴）						3年目
4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4



4, 実地経験の実際例(前期研修)

実地経験のパターン

自施設に、以下の日本作業療法士協会版に該当するツールがある
①実地経験自己チェックリスト、②実地経験目標自己管理シート

YES

NO

【自施設版のツールを使用し、実地経験を進める】

- ・ 自施設版のチェックリスト
- ・ 目標管理シートなど

【OT協会版の以下のツールを使用し、実地経験を進める】

- ①実地経験自己チェックリスト
- ②実地経験目標自己管理シート

自施設・組織内に実地経験修了確認者がいる

YES

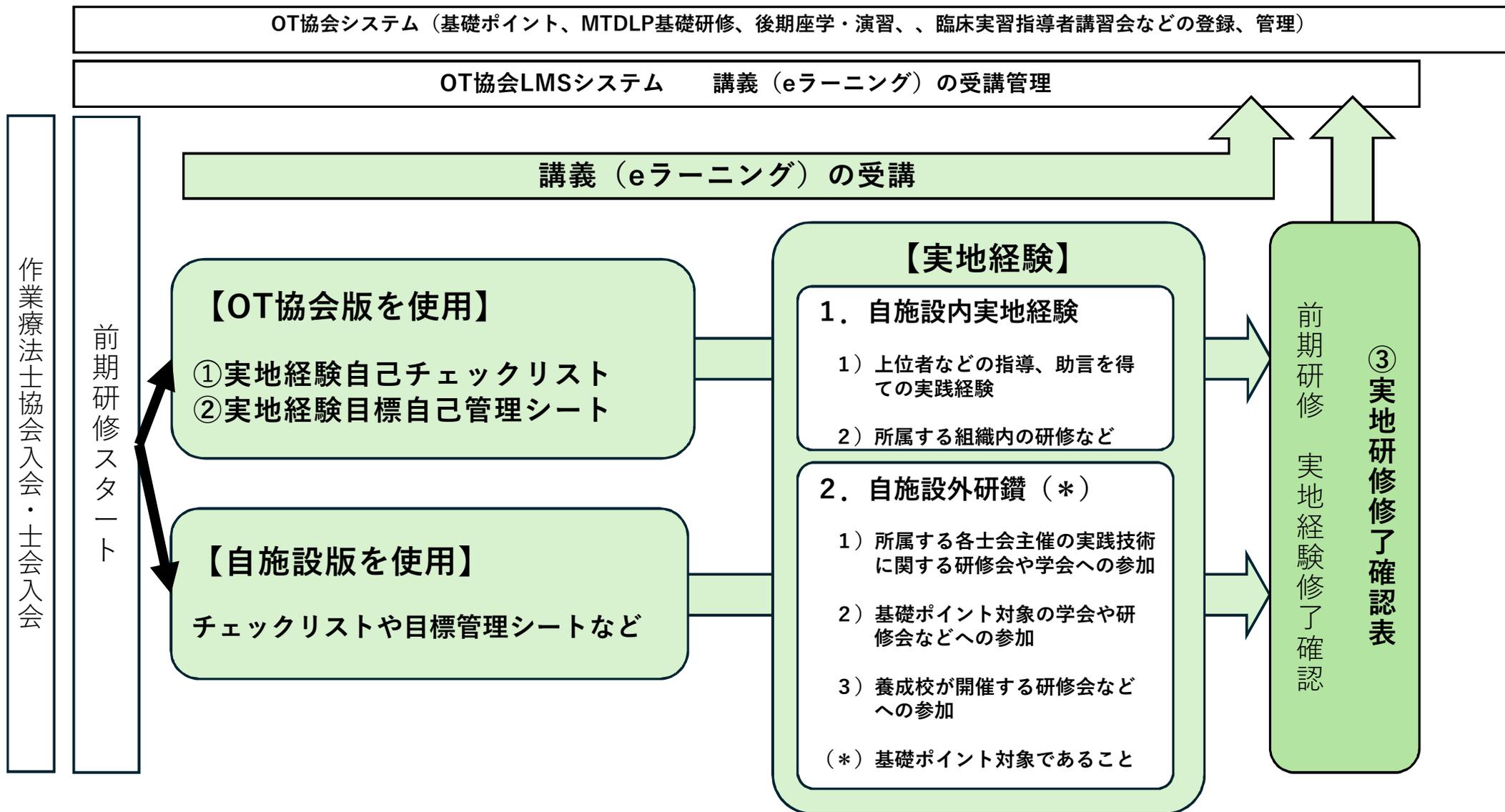
NO

ア) 研修中OTは、以下のOT協会版ツールを用いて自施設・組織内の**実地経験修了確認者(*)**と、実地経験修了確認を行い、提出
③前期研修 実地経験 修了確認表

イ) ③前期研修実地経験 修了確認表に替えて、前期実地研修中に**4回以上 (**)**の**自施設外研鑽の受講証明書・領収証**と①**実地経験自己チェックリスト (コピー)**を提出

- (**)
- 1) 前期研修中に1)を2回以上、かつ1) 2) 3) 合わせて4回以上の研鑽
 - 2) 所属する各士会主催の実践技術に関する研修会や学会への参加
 - 3) 基礎ポイント対象の学会や研修会などへの参加
 - 3) 養成校が開催する研修会などへの参加

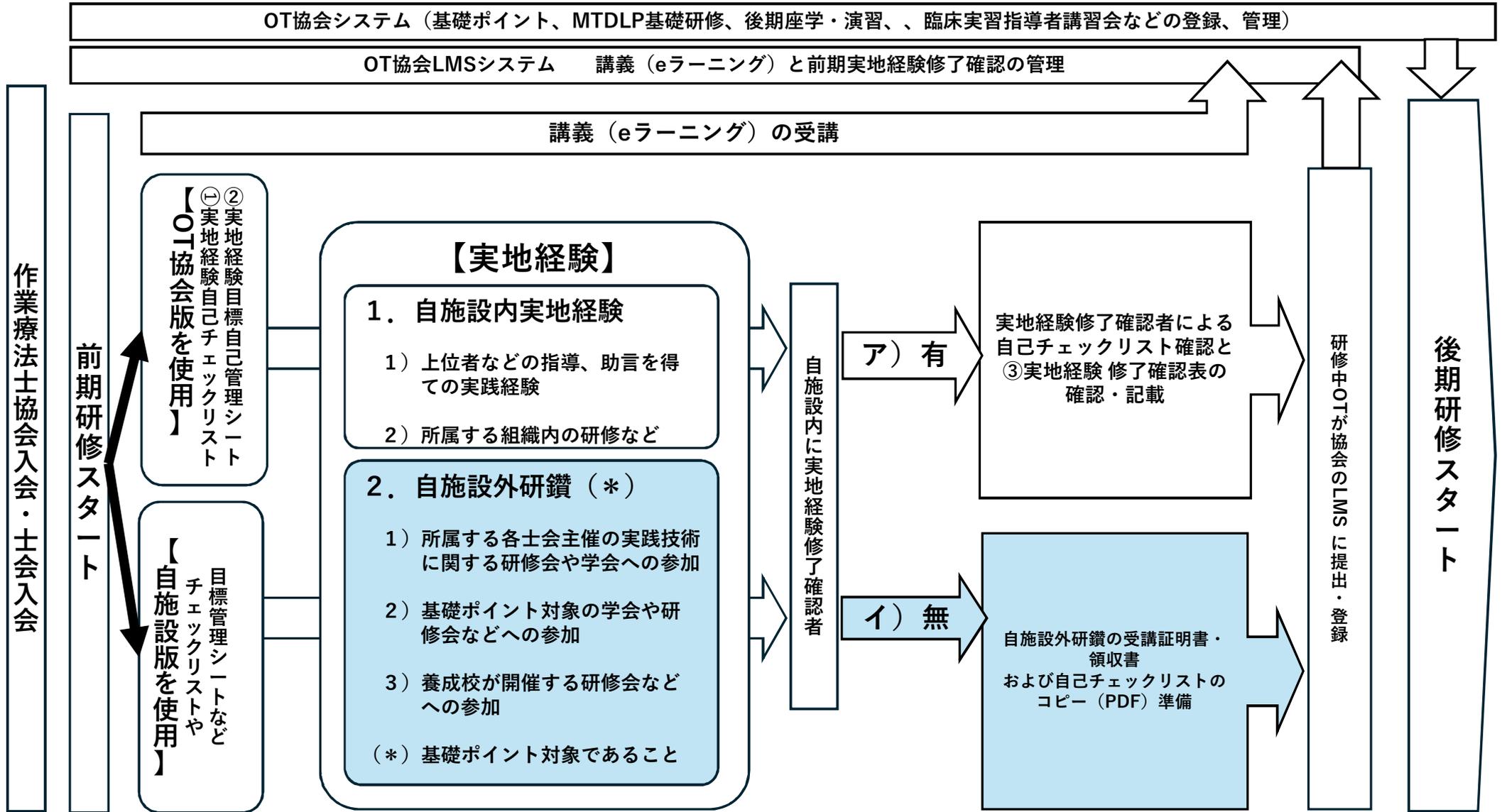
研修中OTが、LMSに提出



前期研修 実地経験修了確認の時期

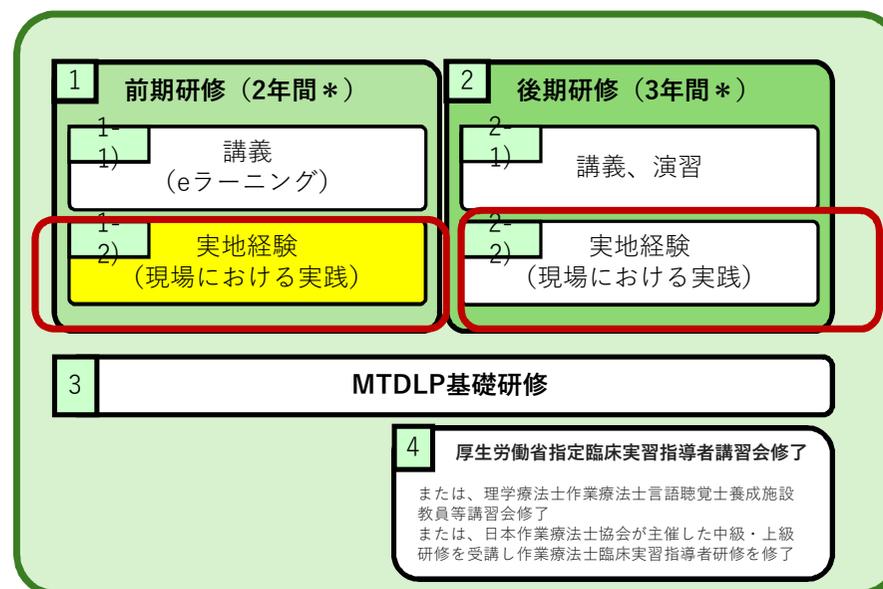
- 前期研修2年目（会員歴）以降であれば、いつの時点でも実地経験修了確認を受けることは可能
- ただし、前期研修が修了し、会員歴が3年目以降でなければ後期研修は受講できない

研修中OTの行う手続き：実地研修修了確認者がいない場合の手続き



前期実地経験中の自施設外研鑽「必須回数」 (基礎ポイントに該当する研修会・学会など)	ア) の場合*	イ) の場合*	
1) 所属する各士会主催の実践技術に関する研修会や学会への参加	2回以上	合計 4回 以上	1) は、2回以上
2) 基礎ポイント対象の学会や研修会などへの参加	任意		任意
3) 養成校が開催する研修会などへの参加 など			

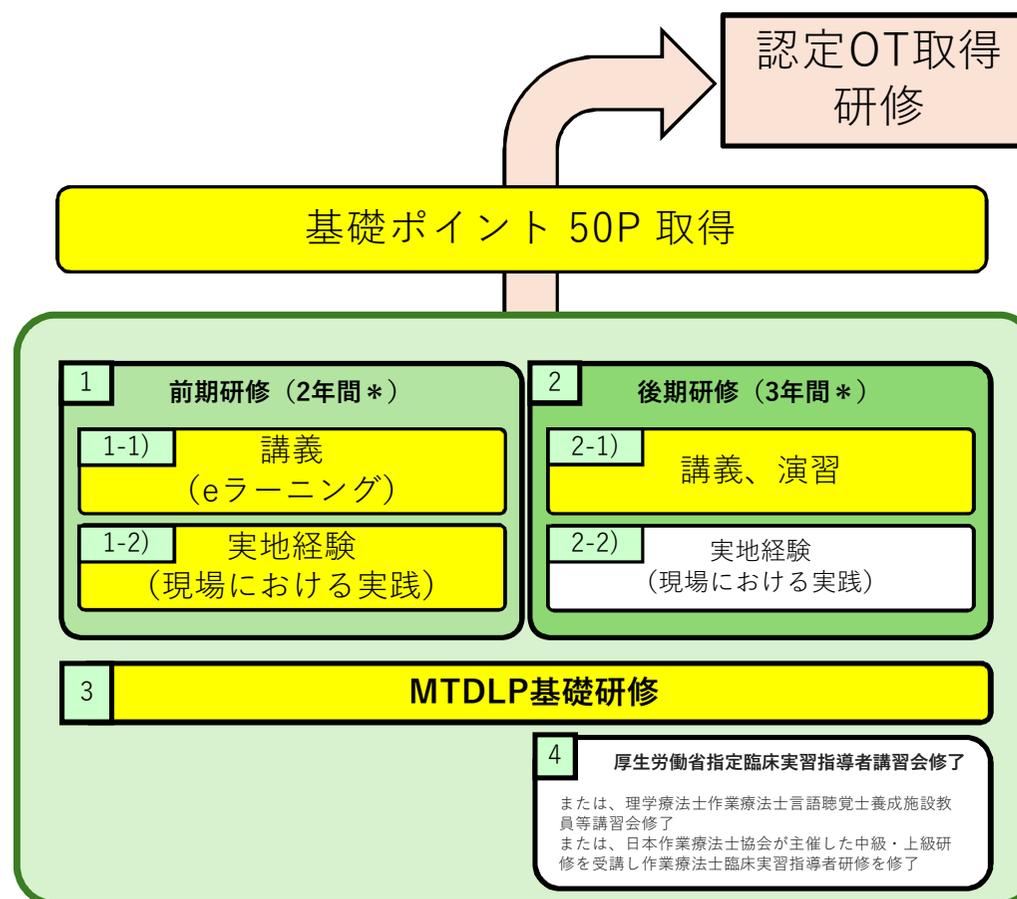
* ア) イ) は、実地経験修了確認者 (OT) の有無による区分



研修中のOTが「認定OT取得研修」を受講する要件 —前期・後期研修中から認定OTを目指すために—

要件を右図（黄色）に示す

- ①前期研修（講義・実地経験）修了
- ②後期研修（講義・演習）修了
- ③MTDLP基礎研修修了
- ④基礎ポイント50ポイント取得



2024年度以前の入会者の登録OT申請要件

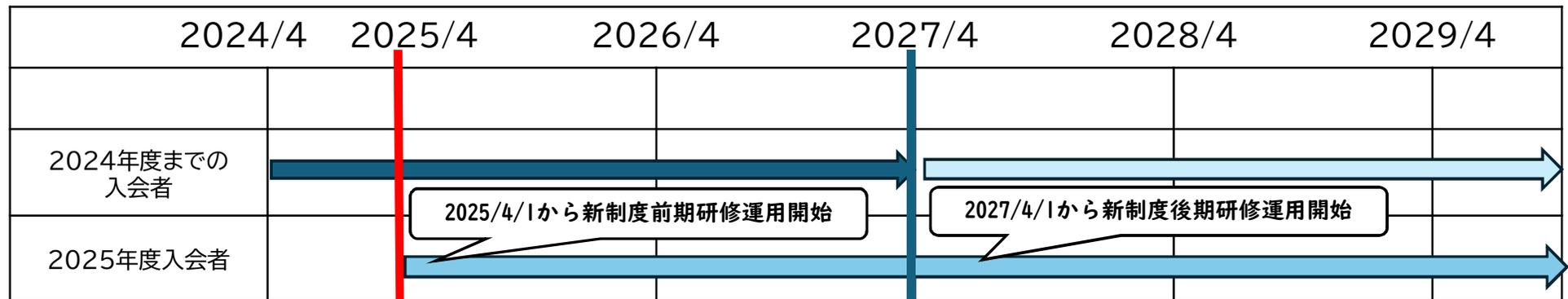
【原則】

- ① (現行) 現職者共通研修修了
- ② (現行) 現職者選択研修修了
- ③ 基礎ポイントを50ポイント以上取得
- ④ 厚生労働省指定臨床実習指導者講習会受講修了、または理学療法士作業療法士言語聴覚士養成施設教員等講習会受講修了、または、日本作業療法士協会が主催した中級・上級研修を受講し作業療法士臨床実習指導者研修を修了

要件を満たし申請

登録作業療法士

(新) 生涯学修制度 と (現行) 生涯教育制度



2024年度以前入会者の新生涯学修制度への移行

2024年度までの入会者の登録OT要件（原則）

基礎研修修了

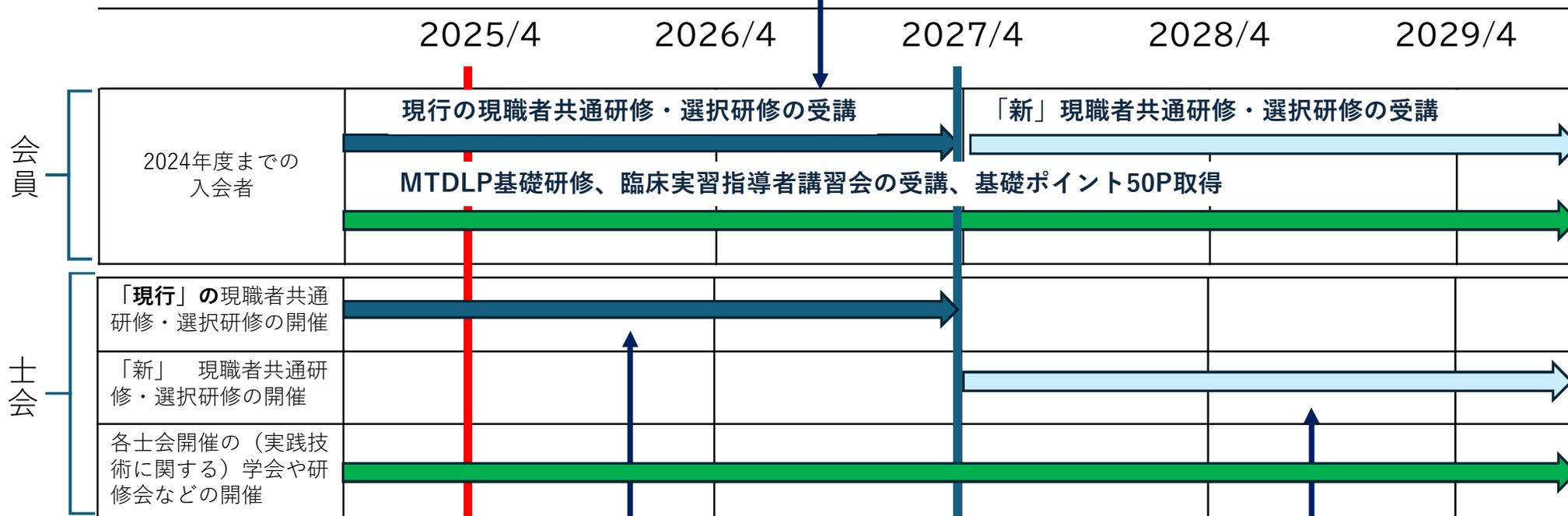
- ・（現）共通10テーマ修了
- ・選択I領域・MTDLP基礎修了
- ・基礎P50P取得

+

厚生労働省指定臨床実習指導者講習会修了
 または、理学療法士作業療法士言語聴覚士養成施設教員等講習会修了
 または、日本作業療法士協会が主催した中級・上級研修を受講し作業療法士臨床実習指導者研修を修了

読み替え要件

2027/3/31までに基礎研修修了していただくよう促していただきたい（最低限共通研修は修了いただくよう促していただきたい）



◆ 新制度への移行に伴い、2025年度2026年度までは「**現行の**」現職者共通研修・選択研修を継続していただきたい。

- ・ 受講者が減ることも踏まえ、（士会で開催できない場合）協会にて代替方法を準備予定（医療福祉eチャンネル：1-8テーマ）。

新制度での新現職者共通研修・選択研修を開催いただきたい。
 （2024年度までの入会者も受講予定）

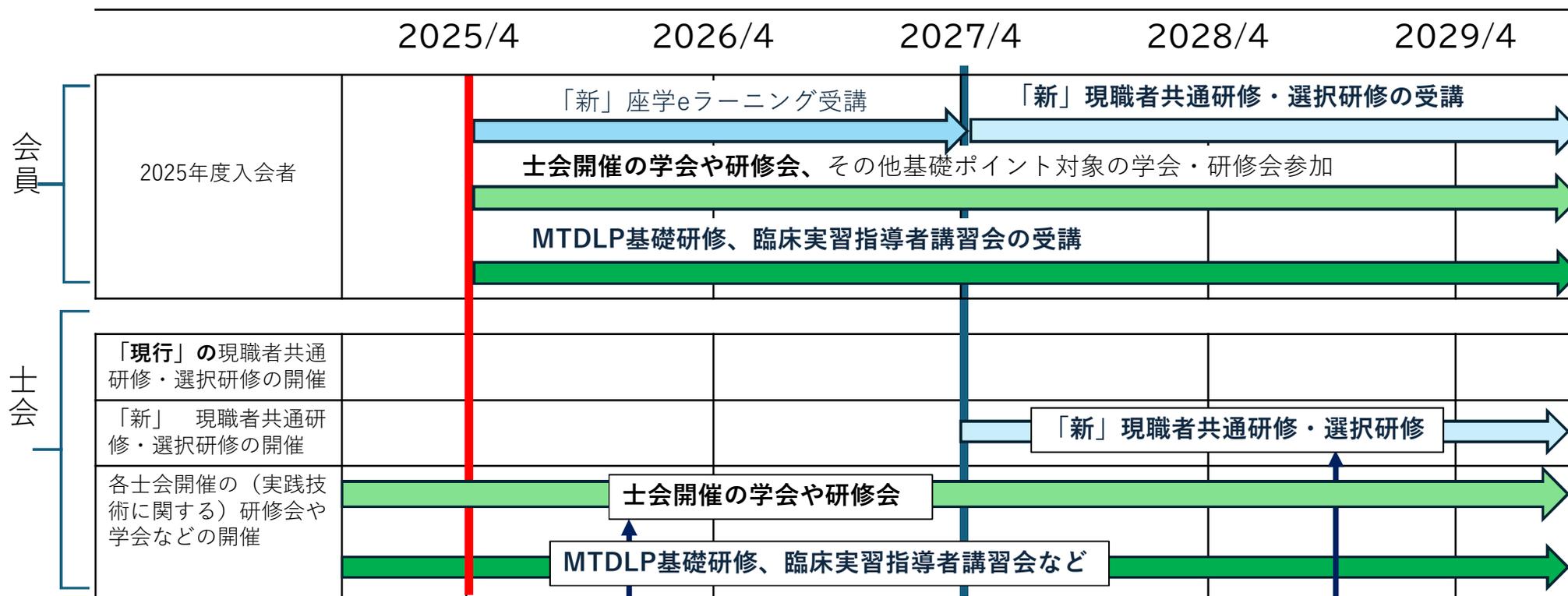
- ・ 共通研修の一部は、OT協会が作成するeラーニングを導入予定。

2024年度以前入会者が、
 現行制度修了後（2027年度以降）に、
 未受講の現職者共通研修を受講する方法

(現行) 現職者共通研修			(新) 現職者共通研修	
	講座 1		講座 1	
	講座 2		講座 2	
未受講	講座 3	→	講座 3	
	講座 4		講座 4	
	講座 5		講座 5	
	講座 6		講座 6	
	講座 7		講座 7	
	講座 8		講座 8	
未受講	講座 9	→	講座 9	
未受講	講座 10	→	講座 10	

未受講番号の講座を受講

2025年度以降入会者の（新）生涯学修制度



◆ 新制度開始後も、これまで開催してきた士会での（実践技術に関する）学会や研修会の開催にご協力頂きたい

すでに各士会が開催・計画している学会、研修会を、新入会者も対象の（実践技術に関する）学会・研修会であるとして参加を促していただきたい

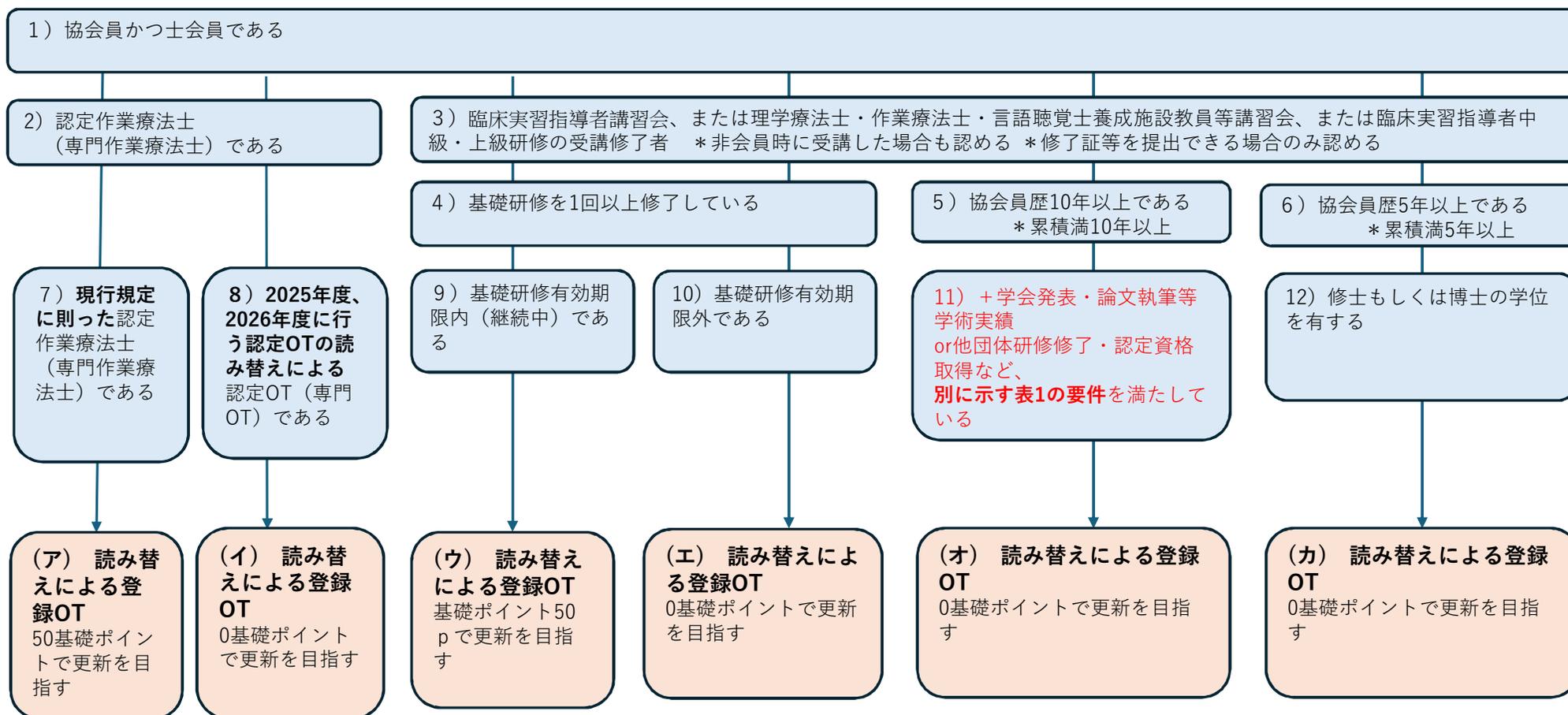
◆ 新制度での新現職者共通研修・選択研修を開催いただきたい。

- ・ 共通研修の一部は、OT協会が作成するeラーニングを導入予定。

登録OT読み替え要件

登録OT 読み替え要件 (最終案)

1017案 2024年度以前の入会者が登録OTとなるために満たすべき要件
* 全て2027年4月1日時点において満たすべき要件を示している



11) + 学会発表・論文執筆等学術実績
or他団体研修修了・認定資格取得など、別に示す表1の要件

【表1】 協会員歴10年以上（累積満10年以上）の者が1つ以上満たすべき要件

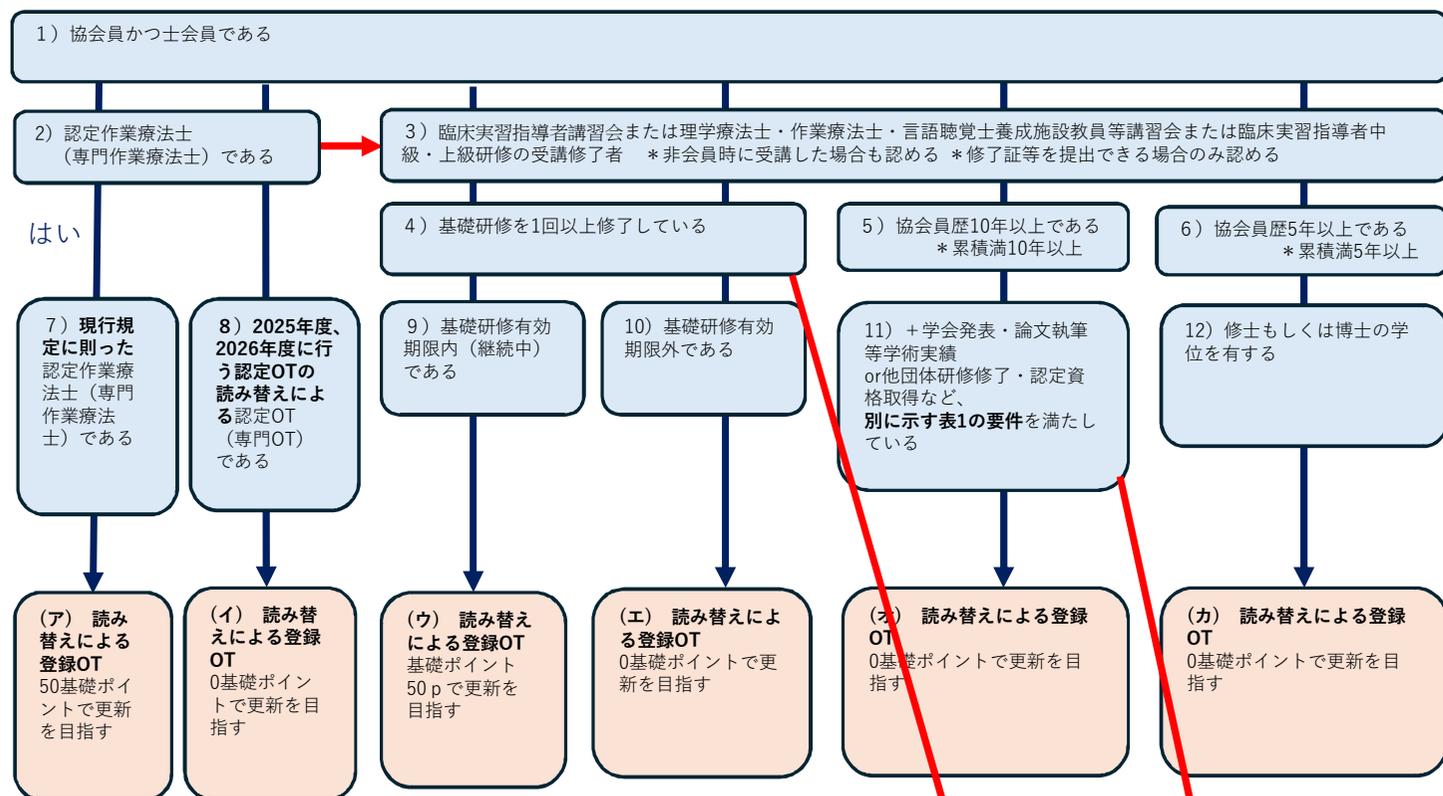
- ①日本OT協会または都道府県士会学会 参加 2回以上（2005年度以降）
- ②日本OT協会、都道府県士会学会 発表（筆頭） 1回以上（2005年度以降）
- ③日本OT協会、都道府県士会学会 講演講師経験 1回以上（シンポジスト含む）
- ④日本OT協会、都道府県士会学会 研修会（90分以上）講師経験 1回以上
- ⑤都道府県士会役員（理事・事務局長、副会長、会長、監事） 1期以上
- ⑥日本OT協会役員（理事・事務局長、副会長、会長、監事） 1期以上
- ⑦日本OT協会部長、委員長 1期以上
- ⑧日本OT協会、都道府県士会、他団体・SIG主催学会会長経験者 1回以上
- ⑨OT協会ホームページの他団体認定資格に登録されてる資格取得者（2024年7月時点で9資格）

登録OT 読み替え要件 (最終案)

1017案
(はい・いいえ入り)

2024年度以前の入会者が登録OTとなるために満たすべき要件
* 全て2027年4月1日時点において満たすべき要件を示している

いいえ
→
はい
→



【表2】2024年度以前の入会者が、2027.04以降に満たすべき要件

- 1) (現行の) 現職者共通・選択研修修了 (*)
- 2) 基礎ポイントを50ポイント以上取得
- 3) 厚生労働省指定臨床実習指導者講習会受講修了、もしくは理学療法士作業療法士言語聴覚士養成施設教員等講習会受講修了、もしくは、日本作業療法士協会が主催した中級・上級研修を受講し作業療法士臨床実習指導者研修を修了

・ 以上を満たした時点で登録OT申請可能
・ 読み替えの要件を満たすまでの、期限は設けない

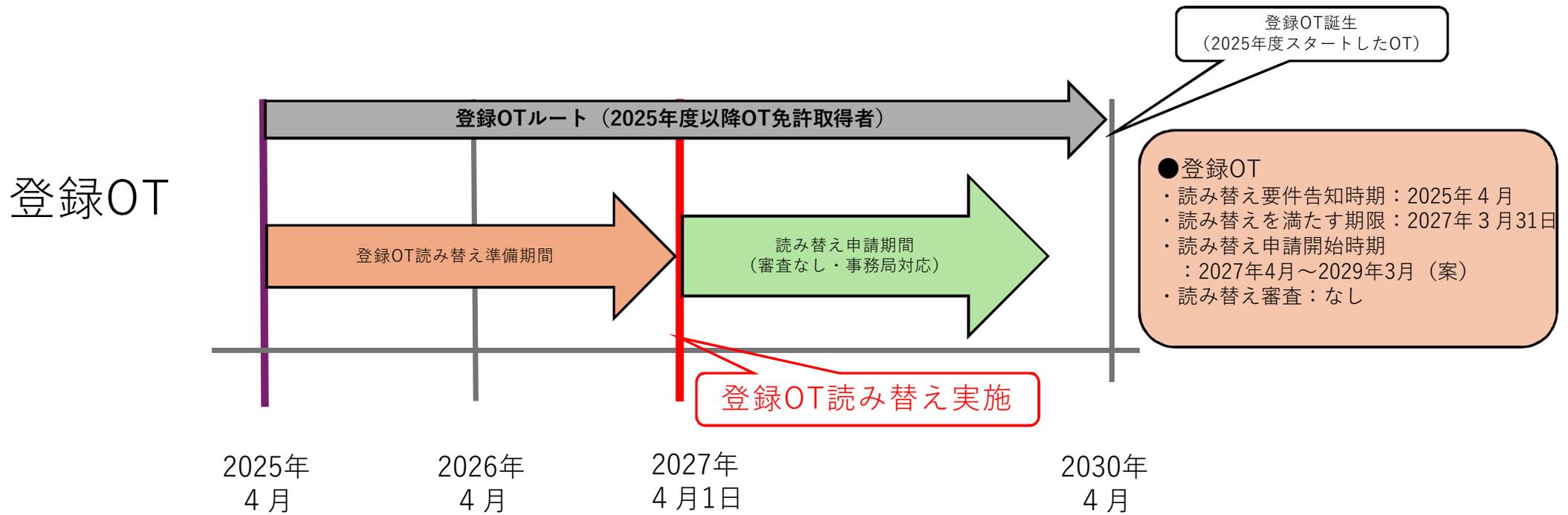
(*) 現行制度は2027年3月末で終了予定のため、2027年4月以降は、後期研修の新現職者共通・選択研修で旧制度の未受講番号の講座を受講する。

登録作業療法士読み替え時期について

当日、資料追加予定

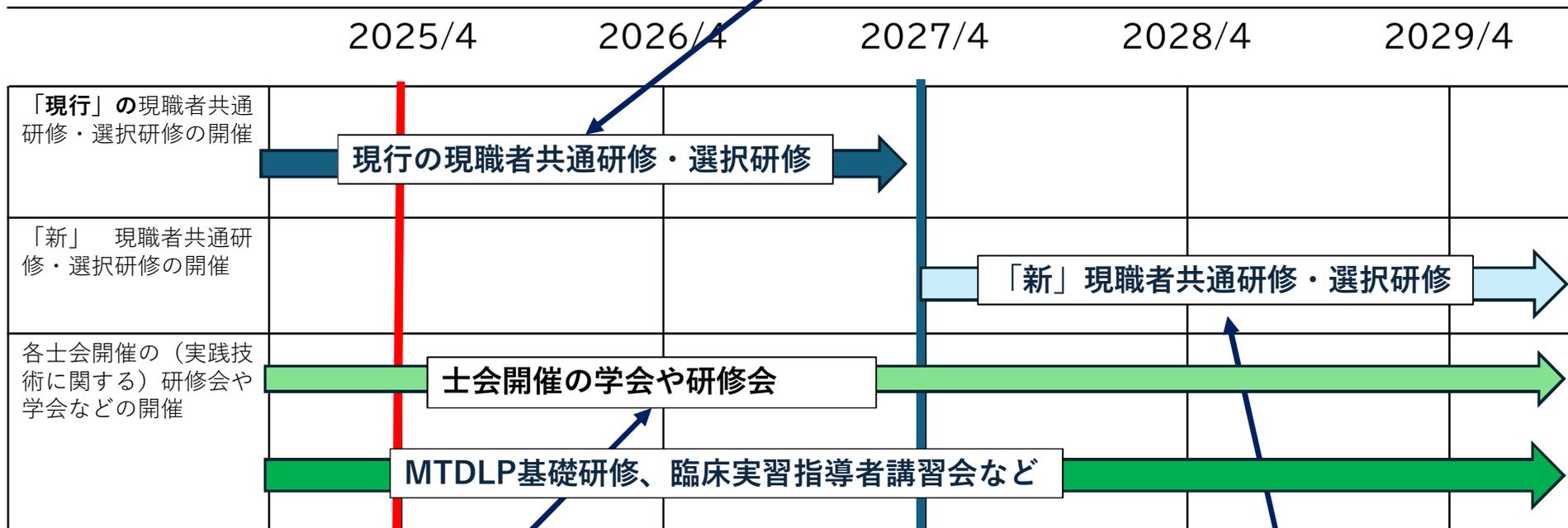
登録OT読み替え実施時期について

2025年度・2026年度の2年間は現行の生涯教育制度と新しい生涯学修制度が同時並行で運用される



士会へのお願い事項（まとめ）

◆新制度への移行に伴い、2025年度2026年度まで継続いただきたい。協会にて代替方法を準備予定（医療福祉eチャンネル：1-8テーマ）。
 ◆2027/3/31までに基礎研修修了していただくよう促していただきたい（最低限共通研修は修了していただくよう促していただきたい）



◆ これまで開催してきた士会での（実践技術に関する）学会や研修会の開催にご協力頂きたい
 ◆ 各士会が開催・計画する学会、研修会を、新入会者も対象の（実践技術に関する）学会・研修会であるとして参加を促していただきたい

新制度での新現職者共通研修・選択研修を開催いただきたい。（2024年度までの入会者も受講予定）
 ・ 共通研修の一部は、OT協会が作成するeラーニングを導入予定。